

# 生産者を訪ねて話そう！

主催：JA東京中央会・東京都生協連

日程：2013年7月18日（木）

東京にも畑があり、新鮮で安全な農産物を生産し都市住民に供給しています。しかし生産者の高齢化、後継者難、相続等大きな課題も抱えています。そんな中で、新しく東京で農業を始めた生産者の方に、新規就農者の視点から見た東京の農業、農業にかける思いなどを伺い、東京の農業の可能性や役割について考えようと瑞穂町の新規就農者を訪ねました。



東京都生協連  
竹内専務

大都市、大消費地東京にも畑があり、多品目の野菜などが生産されているが、農家の高齢化などで休耕農地も増えている。2006年よりJA東京中央会と東京都生協連が協同し「あぐりフレンズ・東京」の取り組みを展開。JAと生協が協同することで、消費者と生産現場の架け橋となり東京の農業活性化につなげたい。

参加人数：49名

(参加者30名、JA他12名、生産者3名、東京都生協連4名)

## 《スケジュール》

- 8:40 新宿出発
- 9:50～ 瑞穂経済センター着 直売所で買物
- 10:40～ 開会挨拶
  - ・東京都生協連 専務理事 竹内 誠
  - ・JA東京中央会 常務理事 増山 茂美
  - ・JAにしたま 組合長 村野 英夫
- 生産者のお話
  - ・井垣 貴洋さん・美穂さん
  - ・近藤 隆幸さん
- 12:00～ 昼食
- 13:00～ 井垣さんの圃場見学  
近藤さんの圃場見学
- 16:00 新宿解散



JA東京中央会  
増山常務

住宅街にある小さな直売所では、朝採りの新鮮な品物を地域の方に提供している。生産者には、少量出荷で現金収入になり生活の糧になっている。また、子ども向けの冊子「ちやぐりん」（子ども・農業・自然を合わせた造語）を発行し、子どもたちに農業、食べ物、自然、いのちの大切さを伝えている。



瑞穂町にある農畜産物直売所では、棚いっぱいに並んだトマトやトウモロコシ、ブルーベリーなど採れたて新鮮野菜・果物のお買いものをしました。直売所の壁には、生産者の顔写真があり笑顔で私たちをむかえてくれました。



JAにしたま  
村野組合長

JAにしたまは、瑞穂町・福生市・羽村市からなり、つましく穏やかに暮らしてきた地域といわれている。福生市や羽村市は畑が少ないが、瑞穂町は、昔から麦が栽培され雲雀がいた。そして、どこの家でも冠婚葬祭には“手打ちうどん”を用意してお客に召し上がっていただいた。また、シクラメン街道ともいわれるようにシクラメンやさまざまな花きが生産され、都会の暮らしに彩りをあたえている。埼玉に近いこともあり、お茶「東京狭山茶」の栽培も盛んである。



グロキシニア



昼食は、直売所の方々に作っていただいた手打ちうどんと赤飯の郷土料理のお弁当



# 新規就農の井垣さん・近藤さんの講演と圃場見学

## 「無農薬・無施肥の自然栽培に夫婦で奮闘中」

井垣 貴洋さん・美穂さん ご夫妻

2009年に（畑）いがきのうえんをはじめた。二人とも農業経験はなかったが、有機野菜のおいしさを感じ、夫婦で有機野菜農家で1年間研修。有機のニーズはどこにあるか？都市にあるのではないかと東京に就農地を探し14アール（現在55アール）の畑を借りることができた。少量多品目栽培で年間約50種類を露地栽培している。農薬・肥料（有機肥料も）を一切使わない自然栽培で、種は自家採取し、連鎖をしている。畑の同じ場所で同じ作物を繰り返し作る連鎖をさせて種をその土に馴染ませていくと、年々出来が良くなると言われている。自然栽培でできた野菜は、食味がすっきりしているのどごしがよいので量がたくさん食べられ、栄養価も高いという報告もある。現在の主な出荷先は、注文による個人宅配と、羽村市のスーパーに卸している。年に一度ファンの集いを行っている。



大きなけやきの木が木陰をつくっている。葉が落ちればよい土になる



近所の方が草刈りのボランティアをしてくださる。刈った草は、一か所に積み上げ土にし、春に苗の土として使っている

雨水をタンクに溜めて苗の水やりに使っている



## 「東京NEO-FARMERS！」

近藤 隆幸さん

非農家出身だが、作った野菜などを直売所においてもらったりしながら、6年前に農業一本へ。今は1.8ヘクタールの畑で野菜をつくっている。食卓にのった野菜で家族が楽しく会話ができるとよいと思う。



東京の農家も高齢化や後継者不足という点では日本の農業全体と同じ課題を抱えている。そんな中、非農家出身でも農業をやりたいと考える人が増えている。農地の絶対量が少ないため、以前は「東京で新規就農はできない」と言われてきたが、農家以外の方も市街化調整区域で農業を始めることができるようになった。

「東京NEO-FARMERS！」は、東京都農業会議を通じ、都内で新規就農している人、新規就農を目指している人、それを応援する人が集まり、直売や新規就農の相談などに取り組むようになり「東京NEO-FARMERS！」へと発展、2012年に結成。新宿駅西口広場イベントコーナーにて、メンバーが自ら販売を行なうなどのイベントも行っている。



広い畑の一角で、陽の光をあび 緑鮮やかに育った枝豆の収穫体験



参加者のアンケート（23枚提出）から、『日本の農業はこの先暗いと心配していたが、若い方たちのお話を聞いて嬉しくなった』『東京の農業が続いていくことを消費者のひとりとして応援していきたい』などの感想や、『自然と共に生きることは大変かと思うが、永く地球を守ることと思う。頑張ってください』『広い農地を管理・運営することは大変でしょうが、共に頑張る仲間と協力し合い高めてください』など、新規就農した若い生産者へのメッセージをいただきました。

東京で就農できる地域や規模は限られていますが、都会のそばに残る貴重な農地を未来の世代につなげていきたいと思う一日でした。